

大事協だより

大島地区公立小中学校
事務職員協会 研修部
第 50 号
2015 年 10 月 30 日発行

〈各地区からのお便り〉

今回の原稿は ①和泊町 ②宇検村 ③奄美市東部ブロック ④奄美市西部ブロック から届きました。また、和泊町・奄美市西部ブロックからは事務支援室だよりも届いています。

運動会・体育祭の準備などでお忙しい中、ご寄稿くださりありがとうございます。



① 和泊町事務職員会

和泊町がある沖永良部島は、主にテッポウユリやジャガイモを生産している農業の島です。しかし、昔から生活用水や農業用水の確保が難しく、現在、国の直轄事業として「地下ダム」を建設しており、今年度で着工から9年目になるようです。平成30年の完成を目指しています。

そのような自然の中で、和泊町事務職員会は、今年度、新規採用者を2名迎え、男性3名、女性3名の6名で新たな船出をしました。主幹から新採まで少人数ながらも幅広い年齢構成になっていますが、互いに学びあいながら良い雰囲気の中で研修ができています。

今年度はテーマ研修として「財務取扱規程」の制定を目指し、日々研修に取り組んでいます。現在は、他地区で制定されている前例を参考にしながら、和泊町にあった原案を検討しているところです。研修会は年6回を予定しており、加えて隣接する知名町との合同研修会を3回計画し、主に研修視察を中心に共同で研修を行っています。

新規採用者の配置が多い分、研修会としての育成体制が今後の課題になってきます。そのためにも気軽に相談しあえる雰囲気作りがとても大切です。ときに優しく、たまには愛をもって厳しく、活力ある事務職員会を目指していきたいと思ひます。



②宇検村事務職員会

宇検村立田検中学校 山崎 敬伍

こんにちは。宇検村事務職員会です。

宇検村は奄美大島中南部の西岸に位置し、深い入り江の焼内湾を取り囲むように点在する14の集落から成っています。奄美群島一の高さを誇る霊峰・湯湾岳からは宇検村の豊かな自然が一望でき、素晴らしい環境で仕事をさせてもらっていることを実感させられます。

宇検村には8つの小・中学校があり、3名の事務職員で学校事務を運営しています。昨年度から正式に支援室としての共同実施を開始し、少ない人数ですが様々な課題解決に向けて協議、検討しています。また、今年度は新規採用者も配置され、兼務校も抱えている職員もいることから、学校間の連携が事務処理の効率化において欠かせない状況になっています。

宇検村の支援室は原則月2回実施していますが、年度当初のような事務処理が煩雑になる時期は実施回数を増やして対応しています。執務室については、5月より今までの田検小学校から名柄小学校に移しました。主な活動内容は、諸手当の認定事務、例月業務の確認、支援室便りの発行計画及びその他学校事務に係る研修などです。7月からは教育センターが管理するFacenet（テレビ会議システム）を用いて、月末に例月報告の確認や情報交換を行っています。Facenetを用いることによって、それぞれの学校を離れずに職員間での連携が取れるようになりました。また、前述の共同実施に加え、今年度から学期毎に1回宇検村事務職員研修会を開催し、それぞれ設定したテーマに沿って討議しています。

始まって2年目の支援室ですが、宇検村の教育環境の充実のために日々研鑽を重ねています。これからも村内に止まらず他の自治体との連携を取りながら研修を深めていきたいと思っています。これからも宇検村事務職員会をよろしくお願ひいたします。



③奄美市名瀬東部地区事務支援室 奄美市立小湊小学校 入佐 晴美

こんにちは。名瀬東部地区支援室です。

今春、2年連続で新規採用職員が配置されました。若手2名・中堅1名・ベテラン2名とバランスのとれた構成でスタートしました。支援室は、毎週水曜日に奄美小学校で実施しています。大規模校・小中併設校・極小規模校と学校規模が異なるため、学校行事優先で支援室業務を行うことにしています。

本年度は、年1回は各学校へ行って自主検査の補助をすることになりました。但し、給与・実績報告関係については、全ての学校の簿冊点検を支援室で行うなどして、支援室全体のチェック機能の向上を図っています。やるべきことは正確にやりつつプラスαで「支援室で何かやりたいことないの?」と先輩からずばつと問われ、「①今の仕事でせいいっぱいです②もっと研修して事務職員の仕事をバリバリできるようになりたい③せっかくの共同実施・学校現場に還元できる取組を何かしないと(焦)」と①~③が心の中でないまぜになってもじもじしている筆者及び若手2名です。

(まずは自分の学校の予算が底をついているのをどうさばくるかい!) 支援室内でいろいろなアドバイス・意見を出し合って課題解決していきたいと思います。

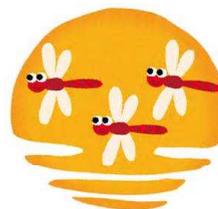
④奄美市名瀬西部地区事務支援室

奄美市名瀬西部地区支援室です。発足して4年目を迎えました。今年度は、人事異動により2名の入れ替わりがありました。昨年度同様、経験年数ではバランスのとれた構成で、9校10名でのスタートとなりました。本支援室では、月2回(4月は4回)、執務室のある金久中学校事務室で業務を行っています。前述のとおり、10名構成という比較的大きい所帯ですので、特に、年度当初の認定事務(今年度は80件)と四半期ごとの自主検査については、中学校区を基準とした上方地区(朝日中・朝日小・芦花部小中)、中央地区(金久中・名瀬小・伊津部小)、下方地区(小宿中・小宿小・知根小)の3校区の3校ずつに分け実施しています。そのほか、県費の給与、旅費事務や市費の需用費、備品購入費、就学援助事務における事例研修、支援室開設当初から引き続く支援室だより「あかしょうびん」の発行、物品購入数の少ない小規模校の購入単価を落とす効果がある消耗品の共同入札、等を行っています。

奄美市事務職員研修会では「共同実施組織のさらなる充実のため、各支援室相互の情報交換・データ共有を進める~定期的な情報交換や相互チェックの実施により事務職員としての資質向上に努める~」という研修テーマ及びサブテーマを掲げ活動していますが、本支援室においては、大規模校から極小規模校まで混在している中で、共通の業務としてできるものを模索しながら、どのような形でこのテーマに沿いつつ「教育支援」を行うことができるか検討していくことが必要であると考えています。

月2回の共同実施ではありますが、認定事務に始まり、あらゆる分野で、毎回、特殊事例を含めた内容の濃い発表が多々あり、活発な質疑等が飛び交う中にも、和やかで、楽しく気兼ねない意見交換ができる雰囲気の中、業務を行っています。

これからも支援室業務を広げつつ、名瀬西部地区らしい共同実施ができるよう、10名の事務職員が丸となって頑張っていきたいと思っています。今後とも、よろしくお祈りします。



~ 新規採用者の声 ~



和泊町立和泊中学校
橋口健太郎

「光陰矢のごとし」という言葉の通り、和泊中学校の事務職員になりあつという間に1学期が終わり、夏休みを経て2学期を迎えました。学校事務の仕事は想像以上に多岐にわたり、常に慌ただしいと感じながら過ごしてきたために、時の経過も早く感じているのかもしれない。しかし、仕事が大変だと思っ一方で、確かな充実感というものも感じつつあります。

直近のことではありますが、体育大会は特に印象に残っています。事務職員として必要な消耗品等を揃えたりする傍ら、生徒役員を指導したり、本番では自分も職域リレーに出場したりと、本当に休む間もなく動いていたような気がします。全てが初めての経験で戸惑うことも多かったのですが、普段よりも生徒や先生方、さらに保護者の方や近隣住民の方々とも密接にかかわることで、ようやく職員の一員として学校に貢献することができたのではないかと、という実感が湧きました。

まだまだわからないことだらけで迷惑を掛けてしまうことも多いですが、いつも優しく丁寧に指導して下さる近隣の学校事務の先生方に感謝しつつ、流れゆく時間の早さに取り残されることなく、とにかく健康に1年間を乗り切りたいと思います。



和泊町立国頭小学校
脇田 綾香

4月より、新規採用で国頭小学校に赴任しました脇田綾香です。赴任してから約半年が過ぎ、環境や仕事、やもりがいる事務室にも大分慣れてきました。怒濤の半年でもあり、あまり記憶がないということも事実です。4月当初は右も左もわからず、不安の多い日々でありましたが、周りの事務職員の先生方や学校の先生方、子ども達の笑顔、地域の方々を支えられこの半年を過ごすことができました。先生と呼ばれることに照れつつも、子ども達のために事務職員として何ができるか毎日考えさせられます。

周りにいる事務職員の先生方が丁寧に1つずつ説明してくださり、理解できないことは何度も説明して下さるなど感謝でいっぱいです。まだまだ未熟者で迷惑を掛けることが多くあると思いますが、温かく見守りサポートして下さる周りの事務職員の先生方に今は甘えながら、成長・自立できるように日々仕事を覚えていきたいです。

仕事で手一杯になっている部分もあるので、これからは仕事を覚えながらも子ども達との時間をさらに大切に、笑顔を絶やさず少しでも記憶の片隅に残るような事務職員となれるよう努力をしたいです。



奄美市立大川小中学校
内山 大成

4月の着任から、早6ヶ月が過ぎました。これまでを振り返ると慣れないことだらけの連続で、時間の流れが非常に早く感じます。

大川小・中学校に着任する前は、「離島だから生徒や先生の人数も少ないし、大丈夫だろう」という根拠のない余裕がありました。しかし、着任してみるとわからないことだらけで、「分からないところが分からない」という状態でした。そんな私を支えてくれたのが、名瀬東部支援室の先生方でした。何も分からず焦っている私を横目に淡々と仕事をこなしていく支援室の先生方の姿をみて、本当に凄いと感じました。また、勤務時間外に私の仕事を支援していただいたこともあり、支援室の先生方には感謝してもきれません。

さて、一学期を終えて二学期に入りましたが、いまだに仕事が遅かったりミスをしたりして、多くの先生に迷惑をかけていることがあります。これらの課題を解消するために、これからも同期の事務職員と切磋琢磨しながら、支援室の先生方から色んなことを学んだりして、頼られる事務職員になっていきたいと思えます。



宇検村立田検小学校
中園 仁美

田検小学校に赴任してから半年以上が過ぎました。1日1日をなんとか乗り越えるような日々は赴任当初からも変わりなく、大変ながらもやりがいを感じています。

新規採用事務職員の中では唯一民間経験を経ての採用でしたが、新社会人さながら、勝手の分からない仕事におろろするばかりで、業務の目的や全容までを理解するには時間を要しました。

支援室をはじめ先生方には迷惑をかけ通しで、ずいぶん頓珍漢な質問を繰り返してばかりいました。それでも根気強く指導して下さった先生方のおかげで、どうにか仕事をこなせるようになってきたように感じます。

最近ではようやく「学校にも、事務の仕事にも慣れてきた(かもしれない)」と考えられる機会が増えました。ですが、これから先の半年間も未経験の仕事が待ち構えています。1学期の反省を念頭に、慢心せず挑戦を心がけたいです。

今年度も残り数か月となりましたが、2年目に活かせるような経験ができるよう、密に仕事に励んでいきたいと思えます。

<感謝！大事協だより第50号発行！>

○大事協は次のような意義のもと
設立・活動しています○
○御確認をお願いします○

**<協会設立の基本理念に則り、
更なる発展を目指して活動する。>**

- ①大島地区小・中学校事務職員全員参加の「輪(わ)」を目標とする。
- ②本会は、地区内の緩やかな繋がりで親睦・融和・資質向上を目指す。
- ③大島地区内における情報交換の場とする。
- ④実務研修の充実を図る。

海を隔てている大島地区。それぞれを結び、つながることを目標に、大島地区公立小中学校事務職員協会は2003年(平成15年)に設立されました。(大事協も羊歳だったんですね。)そして、大島地区の事務職員全員で「大事協だより」を作成できたかと思ひ、発行してまいりました。そして、今号で発行数第50号となりました。ここまで発行することができたのも、皆様のおかげだと感謝しています。

理事会・アンケート等、また今後の「大事協だより」発行について、各市町村理事の方々中心にご協力を頂くことが多くあるかと思ひます。日々の業務のお忙しい中ですが、引き続きご協力よろしくお願ひします。

また、支援室も導入され、各支援室の業務などについても紹介している「支援室だより」を掲載していけたかと思ひますので、そちらのご協力もよろしくお願ひします。

まずは年末調整。無事に終了し、よい年末が迎えられるように。

